

令和8年 2月20日

保護者の皆様へ

人間環境大学附属岡崎高等学校

校長 横山 博文

### 校長便り（花便り） 第15号

春寒の候、保護者の皆様におかれましては、ご健勝のことと存じ上げます。また、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。

本日、晴天に恵まれた中、第78回の卒業式を挙行することができました。226名の卒業生の皆さん、保護者の皆様、改めて、ご卒業、おめでとうございます。厳粛で凜とした雰囲気終始した、立派な式典でした。最後まで何とか持ちこたえていた私の涙腺は、最後の卒業生の答辞で、ついに決壊してしまいましたが、卒業生退場の合図で会場から去っていく生徒の背中に拍手を送りながら、なんとか気付かれずに終えることができたと思います。体育館での式の後、各教室で担任との最後の別れを終えて出てきた子供たちの、友との別れの寂しさを紛らわせるために盛り上がる元気な声が暫し中庭に響き、やがて小さく、聞こえなくなって、また静けさを取り戻していく校舎に耳を傾けながら、校長室で一人、卒業式を振り返りながら、至福の時間を過ごさせていただきました。全ての教師が、教師冥利に尽きるのが、この卒業式に日かもしれません。

以下は、本日の私の式辞です。少し長い文章ですが、ご一読いただけると幸いです。

#### 式辞

例年より早く梅の花が咲きほころび、春の足音が力強く感じられる今日のこのよき日に、卒業を迎えられる226名の3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、ご多用にもかかわらず、本校の卒業式を挙行するにあたりご臨席を賜りましたご来賓の皆様へ、厚くお礼申し上げます。保護者の皆様におかれましては、3年間の学びを終え、本日卒業を迎えた我が子の姿を誇らしく、また頼もしく見ておられることと思います。ご卒業、誠におめでとうございます。

さて、卒業生の皆さんは、3年前に本校に入学して以来、様々な経験を重ねてきたことと思います。コロナの影響からようやく解放され始めた時期に入学された皆さんは、コロナの影響下で様々な制約が当たり前であった日常から、それ以前の日常に戻れると言われても、たくさんの戸惑いを感じつつ、高校生活をスタートされたことと思います。マスクをとっていいのかとらないほうがいいのか、からはじまり、

発熱したらどうしよう、家族に感染者が出たらどうすればいいのか、など、社会全体では2類感染症から5類感染症へ移行したと言われても、感染者がまだまだ身近にいる中、多くの不安があったと思います。そのような中でも、皆さんは持ち前の明るさと順応性の良さを発揮し、コロナ前の高校生活はこうだった、というものを、本校に呼び戻してくれました。全てにおいて、学校生活をコロナ以前に戻すことに慎重でなければならなかった私たち教師の背中を、逆に押してくれたのは、皆さんの笑顔だったかもしれません。

あの日から3年、歳月はあっという間に過ぎていきました。幼さの残っていた友達の顔も、内面の成長とともに、今では一人の大人としての、しっかりとした表情に見えます。朝、顔を合わすと同時に交わした挨拶、真剣に取り組んだ授業、昼休みの会話、放課後の部活動など、毎日同じことを繰り返しているようで、決して同じではなかった日々が、皆さんを成長させた全てだと思います。遠足や修学旅行、体育大会や文化祭などの、準備が大変でも楽しかった行事では、クラスの仲間との友情の絆や先生方との信頼関係を実感できたことでしょう。人生で最も多感で成長する時期に本校で共に過ごした仲間を、一生の宝物にしてください。きっと純粋な皆さんの心の支えになるはずです。

平成の歌姫と呼ばれた宇多田ヒカルのある歌の歌詞に、次のフレーズがあります。「廻らないタイヤが目の前に並んでいるけど アクセル踏まずにいるのはだれだろうね 矛盾屋」10代の心理は複雑で矛盾だらけ、素直になれない自分を、自分自身で持て余した時があったかもしれません。また、自分の努力不足や至らなさを、親や周りのせいにして、傷つけなくてもよいはずの誰かを傷つけ、悲しませた時もあったかもしれません。でも、それこそが10代の特権であり、その自分や周囲とのぶつかり合いの中で、成長するものがあったと思います。本気でぶつかれば、本気で返してくれる誰かがいたはずです。その存在を思い出し、今からでも、その時には言えなかった「ごめん」の一言を、伝えてください。人生は思いを伝えることに躊躇している人を、いつまでも待ってはくれません。今日の卒業の日を、今日なら素直になれる口実にして、「ありがとう」と「ごめんなさい」を伝えるべき人に、伝えてみてください。

同じ歌の歌詞は「変えられないものを受け入れる力 そして受け入れられないものを変える力をちょうだいよ」と続きます。実はこの言葉は、キリスト教の祈りの言葉の一節です。耳にしたすぐには相反する力のように聞こえますが、よく聞いてみると、意味する力は同じだということがわかります。「変えられないものを受け入れる力 受け入れられないものを変える力」を身に着けることができれば、人生を常に前向きに生きていくことができるかもしれないという意味で、この言葉は一つの魔法の言葉かもしれません。皆さんがこれから出会う社会は、優しいときばかりではありません。時には「変えられないもの」にぶつかることがあるはずですが、その時には「受け入れる力」が必要です。一方で「受け入れられないもの」もたくさんあるでしょう。でも変化を恐れて黙って受け入れるのではなく、「変える力」を発揮してみる強さも必要なのです。なぜなら、伝統やしきたりも大切ですが、新しい時代を作るのは、新しい価値観や感性をもつ若い人達です。変えることで所属する組織やより良い社会を作るきっかけになるのであれば、時には勇気をもって行動することも大切です。未来の社会は、若い人達で作るべきものだから。皆さんも、間違いなく、その作り手の一人なのです。

卒業生の皆さん、ついに皆さんとのお別れの日がきてしまいました。朝、皆さんと挨拶を交わす日がな

くなる寂しさは、何で埋め合わせればよいのか、私の中に、まだその答えは見つかっていません。予餞会で話したように、皆さんはこの世に生まれた時に、既に人生最大のチャンスを手にかけています。人生は失敗の数以上にチャンスがあるとわかっているにもかかわらず、人間だれしも失敗することに臆病になるあまり、挑戦することそのものから逃げてしまいがちです。けれども、そんな時こそ、成功をイメージして挑戦する勇気を奮い起こしてほしいのです。人生とは、本当は何回もあるチャンスを前に失敗と成功を繰り返しながら、自分自身が作り上げていくものです。その経験を通して様々なことに気付き、学び、悟るのだと思います。生きていくとは、そういう経験の連続と云っていいのかもしれませんが。

さあ、皆さんにとっては今日からが本当の意味で自分自身の人生の新たなスタートです。命は光です。光り輝く希望を胸に、この学び舎を元気に巣立ってください。皆さんの未来に幸多きことを願って、祝辞といたします。

令和8年 2月 20日

人間環境大学附属岡崎高等学校 校長 横山 博文

少雨傾向は続き少し心配ですが、春はもうすぐ、もうしばらく、梅の花の香りを楽しみましょう。